

宮陵 **KYU-RYO** NO.65



**NEW FACE
ROKKAKUBASHI**

**NEW FACE
HIRATSUKA**



一般社団法人神奈川大学宮陵会

活躍する卒業生

Part 1

インタビュー 企業で、世界で活躍するOB・OG



株式会社イサミヤールビー
代表取締役社長
潮 日出夫さん



株式会社イービーエム
代表取締役会長
吉野 徹さん



共立産業株式会社
代表取締役社長
杉野 栄一さん



テクノアルファ株式会社
代表取締役社長
青島 勉さん



イハラケミカル工業株式会社
代表取締役専務執行役員
早川 正人さん



セパック工業株式会社
代表取締役社長
木村 紀一さん



株式会社室伏製作所
代表取締役
室伏 進さん



株式会社マンジャーレ
代表取締役社長
奥山 政美さん



株式会社郷鉄工所
代表取締役社長
長瀬 隆雄さん



株式会社山口久乗
代表取締役社長
山口 敏雄さん



株式会社マツオHDC
代表取締役社長
松尾 孝さん



おやじ日本 山形
代表世話人
和田 英光さん



俳人
若井 新一さん



剣白靖俊鍛刀所
(相模国剣白靖俊)
小野 潔さん



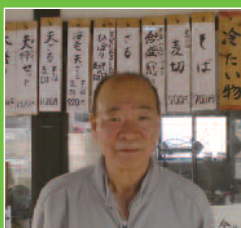
北信越ボクシング連盟
理事長
黒田 勲さん

Part 2

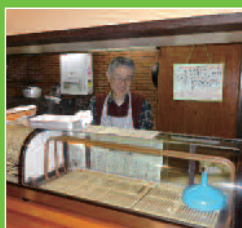
インタビュー 行ってみよう! OB・OGの繁盛店



パブレストラン 浪漫亭
脇屋 直紀さん



そば・麦切りの店 荘内藩
小野寺 一夫さん



小料理屋 六輔
向川 俊男さん



割烹ホテル 一ぶく
向谷 進さん

株式会社山口久乗

代表取締役社長

山口

敏雄さん (旧姓 松井)

Toshio Yamaguchi

●経歴

- 昭和19年4月生まれ
富山県高岡市出身
- 昭和42年3月
経済学部経済学科卒業
- 昭和42年4月
野村證券入社
- 昭和45年
株式会社 山口久乗入社
- 平成6年
代表取締役社長 (現在に至る)

●会社の紹介

「おりん」の音風景
明治四十年、富山県高岡市で創業。以来一〇〇年を超えて高岡の伝統工芸である銅器の仏具を中心に企画・制作



から卸売までを営んでいます。近年は特に仏具の「おりん」に力を入れていきます。「おりん」とはお仏壇の前に置かれ、朝夕の仏さまへのご挨拶として「チーン」と鳴らすあ

の仏具です。この音の奥深さに気づき魅了され、仏さま用としてだけでなく、音を楽しむ楽器をはじめ、くらしの道具まで、日々の生活を気持ち豊かにする「おりん」の商品を生みだし、音と共にある上質な暮らしを提案しています。

●学生時代の思い出

大学では会計学の中村忠ゼミ。そして会計学研究部に所属し、恩師と仲間と他大学との発表会を通じ会計学や証券論を学びました。「かながわ論叢」の懸賞論文に応募したりして、そこで賞金を頂いたことがとても嬉しい思い出です。

大学に行くとき最初に3号館の掲示板を見ます。教室と図書館と会計学研究部の部室が主な行き先でした。会計学研究部の関東学生連合会で中央大・明治大・専修大等と一緒に研究発表会を開いておりました。

部活とゼミに軸を置き、「銀行よサヨウナラ、証券よコンニチハ」の日本経済の時代背景があったこともあり、就職は野村證券を目指しました。お陰さまで三年生の終わりに内定を頂きました。

野村證券の採用試験はまずは書類選考、その次は面接官10人程と学生10人程のブレインストーミング。そこで選ばれた者が役員の個別面接を受け又選別される。幸いにも難関を突破できま

した。
横浜港で荷役のバイトもしたし、国内旅行にはよく出かけたし、勉強も程々にしたし…などなど充実した学生生活であったと思います。

●「おりん」の音色に魅せられて

野村証券では希望に燃えて日々仕事に奮闘していました。わずか三年、故郷高岡から地場産業の仕事の継承話が来て、成りゆくままに婿養子となりました。

高岡市は銅器を中心とした铸物の町として知られています。縁あって故郷の地場産業に携わっている間に「おりん」の音に魅せられてゆきました。

「おりん」の音は不思議です。祈りのための至上の音でありながらどこことなくあたたかく何かに護られているような感覚を与えてくれます。

邪気を払い、場を清めると言われる「おりん」の響きは人の心を整えます。平成四年に「おりん」の音を音階につくり「久乗編鐘」という楽器が出来ました。これで奏でるメロディがJR高岡駅や北陸新幹線新高岡駅の発車メロディとなっています。他に小学校の学

校チャイムとしても使われています。「おりん」のことはメディアにも数多く取り上げていただき、少しずつ世間一般に拡がっています。音のあるインターネットリア・楽器・オブジェとして「おりん」の新しい市場を今もつくり続けています。故郷を想い、仏具の将来を考えたあの日を振り返ると、神奈川大学があり、部活があり、ゼミで学び、野村証券の社会人経験などすべてが積み重なって自分があると思います。感謝です。

●これからの夢

「おりん」の音は無色透明です。同じ形をしていてもさまざま音があります。磨き上げられた「おりん」の音は常に純粋で人それぞれ異なる音色を響かせます。言葉では表現できない想いに気づいたとき、どこまでも限りなく深く、深く、染み渡るように広がる——それが久乗「おりん」の音です。音をデザインすることは無限ですね。生涯現役で頑張ります。「おりん」の音色は人をも呼び寄せます。このお仕事をしていると思わぬ人との出会いもあります。たとえば瀬戸内寂聴さん、さだまさしさん…「おりん」を通して繋がりを持たせて頂いております。政界、財界、文化人、芸能界と幅広いお客様から興味を持っていただき光栄です。

●後輩へ、現役学生へのメッセージ

地方から都会へ出てきた人は、更に世界へ羽ばたいてください。やりたいこと、好きなことを一生懸命やり続けることは新たな可能性や価値観に繋がります。人とのつながりを大切に、好きなことはやり続けることだと思います。

スポーツに専念してもよし、遊びでも旅行でもよし、世界の文化に触れることが出来ます。時間を自由にそして大いに活用できるのは大学生の時が一番でしょう。いろいろとやった人の方がやらなかった人よりずっと良い人生になると思います。なんでも吸収でき、体力もある時です。情熱と努力は力となりますのでいろいろなこと挑戦してください。

(取材・文責/栗林)

北信越ボクシング連盟理事長
学校法人健康科学学園 富山健康科学専門学校 副学校長
黒田 勲さん

Isao Kuroda

●経歴

- 昭和16年11月生まれ 富山県上市町出身
- 昭和35年4月 法経学部経済学科入学 インカレ出場、国体出場
- 昭和38年 東京オリンピック強化選手 日本代表としてハワイ遠征
- 昭和39年3月 法経学部経済学科卒業
- 昭和39年4月 衣料メーカー入社
- 平成17年〜現在 一般社団法人日本ボクシング連盟理事 北信越アマチュアボクシング連盟理事長・富山県アマチュアボクシング連盟強化部長



学校法人健康科学学園・富山健康科学専門学校 副学校長

●大切にしていること(モットー)

“人”を大切にすることです。人との繋がりは「助ける人がいて、助けてくれる人がいる」ことです。常に誰かの支えがあり、そして誰かを支えて人脈となり、人脈は信頼関係を生みます。駅伝の襷のように人と人が繋がるように思いを込めて人と接しています。

●学生時代の思い出

幼少から典型的な負けず嫌いで、身長もなく体重もない普通の高校生だった私が階層別のあるボクシングに出会い、県大会・北陸大会では無敗を誇っていました。練習は決して嘘をつかないものです。そして神奈川大学に入学し、栄光を馳せることなく初心にかえり基本動作のみを岩淵監督の指導の下でしつかり身に付けました。一年生にもかかわらず関東大会リーグで憧れの後楽園ボクシング場でリーグ戦デビューを勝利で飾った思い出は忘れられません。

広島県三原市出身の芝伐先輩(マネージャー)との二人三脚で共同生活し、毎朝多摩川公園や多摩川巨人軍グラウンドまでロードワークした辛い思い出も蘇ります。

国際大会の日本代表選手として日米戦・日本対ポーランド戦・海外遠征等、外国人選手に15戦全勝した日本人として

誇りを持ち、東京オリンピック候補の強化選手としてのハワイ遠征は日の丸を背にした期待と重みを痛感しました。日本代表としての権威ある重圧、異国の地での語学、オリンピックを目指す仲間でありライバル、そして自分との闘いの人生そのものでした。

日本代表チーム15名の一員として6戦を全勝で飾り帰国したのは日大(東京オリンピック代表選手)と神大の私の二人だけでした。体の大きいアメリカ人、ポーランド人とは15戦15勝全勝し最高ランクは全日本3位でした。練習の鬼は決して無駄ではありません。基本に忠実に堅実に監督と仲間を信じひたすら前だけ向いて進んでいたあの頃を誇らしく思い出します。

今振り返ると私が今なお大切にしている「人との出会い、人を大切にすること」が大きく影響し繋がったと思います。私を一言でいうならば「小さな巨人」と言う事かな(笑)

●現在の仕事

ボクシングと出会い、ボクシングに捧げ、ボクシングと共に歩んできた人生、ボクシングから色々なことを教えてもらいました。大学を卒業し衣料の売り場、スポーツ店を人脈と言う財産で事業拡大しました。そして今度は私が恩返しとして、未来ある青年へ北信越アマチュアボクシング連盟理事長として若手の指導をする一方、富山健康科学専門学校でスポーツと福祉のスペシャリスト育成も行っています。また私を育ててくれた上市町の地域活性化の一環として、上市町観光

協会の環境コーディネーターとして森林セラピーガイドを務めています。私の願いは「観光客の細かな要望にできるだけ応え、満足して帰ってもらえるようにしたい」ただそれだけです。

●後輩たちへのメッセージ

多いに遊んでください。そして人脈を大切にしてください。チャンスはいつも訪れているので人脈と信頼さえあれば前に進みます。誰もが知っているガッツ石松さん、具志堅用高さん、赤井英和さん、村田諒太さんらも指導者としての繋がりができました。また基本があつてオリジナリティが出るものです。基本を忘れず、失敗を恐れず、人と人との繋がりを信じてください。

★最後に、「二度は目にしたあの銅像」

覚えている人も多いかと思いますが、旧3号館から旧図書館に向かう途中にフアイティングポーズをとった銅像が建っていたかと思えます。この銅像こそ、1964年の東京オリンピック開催に際して私の日本代表候補となったことを記念して建てられたものです。当時の学内におけるボクシング部の輝かしい地位を象徴するものだったのです。先の銅像は長年風雨に晒され内部が崩壊状態であったため、キャンパスの再開発にあたり姿を消しました。学生の皆様方の一層の精進とOBの皆様の熱心な支援により再びボクシング選手の銅像が学内に建てられる日がくることを願います。

(取材・文責/栗林)